

やくそくの地へむかう ヤレドのたみ

だい51しょう



ヤレドのたみが海べでくらししている時、ヤレドの兄弟はおいのりをわすれていました。主は雲の中にあられ、ヤレドの兄弟にくいあらためるよういわれました。(エテル2：14)



そこでヤレドの兄弟がくいあらためていけると、主はおっしゃいました。「あなたのつみをゆるそう。しかし、もうにどとつみをおかしてはならない。」(エテル2：15)



そして主はヤレドの兄弟に、やくそくの地へみんなをはこぶ船をつくるようにとされました。(エテル2：16)



主はまた、船のつくり方も教えられました。(エテル2：16-17)



船にはすきまがなく、水が入らないようになっていました。(エテル2：17)



「さて、いきをするためにどうやって船の中に空気を入れるのだろう。」ヤレドの兄弟は、どうしたらよいか主においのりしました。(エテル2：19)



すると主は、教えてくださいました。「船の上にも下にもあなをあげなさい。そうすれば、空気が入ってきます。水が入ってくる時は、あなをふさぎなさい。」(エテル2：20)



ヤレドの兄弟はまた、「船の中はくらいです」と主に言いました。すると主は、自分で明かりをえるほうほうを考えるようにと言われました。(エテル2：22-23)



まどはこわれるのでつくることはできません。また火をもって入るわけにもいきません。(エテル2：23)



ヤレドの兄弟は山へ行って、岩から16この小さな石をとかし出しました。その石は、すき通ったガラスのようです。ヤレドの兄弟は、8せきの船のために、2こずつ石をよよいしました。(エテル3：1)



ヤレドの兄弟はこの16この石をもって、山のちょうじょうののぼり、また主においのりしました。(エテル3：1)



「どうぞこの石にさわって、船の中で光るようにしてください」とヤレドの兄弟は、主におねがいしました。(エテル3：4)



すると主はゆびで一つ一つの石をさわってくださいました。(エテル3：6)



ヤレドの兄弟は、とてもしんこうぶかかったので、主のゆびを見ました。そのゆびは、人間のゆびのようでした。(エテル3：6, 9)



主はヤレドの兄弟に、みすがたをお見せになりました。(エテル3：13)



イエスは、ご自分をしんじるものはえいえんのいのちをうけるとおっしゃいました。(エテル3：14)



イエスは、ヤレドの兄弟にたくさんのことをお教えになりました。そして、見聞きしたことを書きとめるように言われました。(エテル3：25-27)



ヤレドの兄弟は、石をもって山を下り、船の前と後に一つずつおきました。すると、石は船の中をてらしました。(エテル6：2-3)



ヤレドのたみは、かちくをつれて、しょくもつをもって、船にのりこみました。主はやくそくの地の方へふく、強い風をおこされました。(エテル6：4-5)



主は、あら海を行くヤレドのたみをおまもりになりました。ヤレドのたみは主にかんしゃをし、主をたたえて歌を歌いました。(エテル6：6-10)



こうして344日の間、海のたびをつづけて、ヤレドのたみはとうとうやくそくの地につきました。(エテル6：11-12)



みんなはじょうりくすると、主の前にひざまずき、よろこびのみだをながしました。(エテル6：12)



それからヤレドのたみは、やくそくの地に家をたて、さくもつをうえました。そして、子どもたちに、主のことばに耳をかたむけ、したがうように教えました。(エテル6：13, 16-18)